

# No. 1420

## 新春の天皇ご一家

昭和57年、おだやかな初春の日ざしに包まれた皇居。天皇ご一家はお揃いで新年を迎えられました。天皇陛下は今年81歳になられますがますますお元気。浩宮、礼宮、紀宮の三人のお孫さまも成長され、楽しみの多い天皇ご一家です。

## スリルと笑い.....

— 矢野大サーカス —

スリルと笑いを乗せて、矢野大サーカスが今、愛知県名古屋市の白川公園で開かれています。お年寄りから子供にまで親しまれているサーカスは、古代ローマ時代に始まった伝統あるショー。我が国で最も歴史のある矢野大サーカスは、明治30年に誕生しました。今回はチェコスロバキアの愉快な熊8頭も特別出演、日本とチェコの友好親善に一役買っています。地上5mに張られた太さ2cmのワイヤの上を自由自在に舞う迫力に思わず息をのむシーンの連続です。

## 闘 犬

— 高 知・桂 浜 —

戦いのために鍛えぬかれた体、そして迫力ある面構え。土佐闘犬司号の堂々の土俵入り。黒潮洗う南国高知。坂本竜馬の像の立つ桂浜を今朝も闘犬を引く人々がいる。高知は古くから土佐犬を戦わせる佐土闘犬が盛んで、今も多くの人が闘犬を育てている。弘瀬悦子さん（39才）もそのひとりだ。弘瀬さんが闘犬と出会ったのは19才の時、それから約20年、育てた闘犬は100頭を超すという。弘瀬さんのところには竜馬号、桂月号をはじめ6頭の闘犬がいる。なかでも一昨年横綱になった土佐司号は自慢の1頭だ。土佐闘犬は藩政時代に行われた犬寄せという闘犬会の風習が始まりと言われている。当時は在来の日本犬が使われていたが明治に入ると意図的に外国犬との交配が行われ、日本犬のもつ気迫と闘志に加えて体力の強い大型犬が作られた。これが現在の土佐闘犬の原型となった。8角形に作られた土俵と呼ばれる闘技場。数多くの闘犬たちが死力を尽して戦いを演じてきた。今日もまた戦いが行なわれようとしている。土俵入りを見せるのは弘瀬さんの土佐司号、弘瀬さんが闘犬を育てることの喜びを感じる時である。闘犬は一勝負30分行われる発声と逃走は敗北を意味するので終始無声で力を尽して組み合う。犬と飼い主の一体となった勝負が展開される。勝負は引き分けに終わった。去年の五月に生れた子犬も順調に育っている成年の今年こそは土佐司号に続く横綱をと胸をふくらませる弘瀬さんだ。